

わざわざ浸水予想区域にキセラ新病院建設すべきではない

12月議会の一般質問で私の床あげと浸水対策のための(黒田)は今秋、関東甲信越防潮流の設置を行うとしていと東北の豪雨、台風による甚大な浸水被害に關連し、「川西のハザードマップ(被害予想地図)地域に新病院を建設していいのかわ」と問題を提起。また、視察した福島・郡山市の被害実態や「街かどカフェ」で出された要望も盛り込み、防災・減災の観点で質問、提案しました。(議会ホームページで動画配信・ブログで質問内容掲載中)

想定地図と実感が一致
 今秋の豪雨、台風による洪水浸水被害地域は、国や都道府県が作成したハザードマップの「洪水浸水想定区域」とほぼ合致。全国的にハザードマップの存在が注目されています。

0.5〜3mの浸水予想
 川西市のハザードマップでは、新病院建設地のキセラ地域が0.5〜3mの洪水浸水想定区域。「わざわざこんな地域に病院を建設すべきではない」と見直しを求めました。

市「1.3mの浸水地」
 私(黒田)は、川西市の災害状況の歴史や日本の平均気温が約30年で0.5度上昇していること、約10年の間に1時間降水量50mm以上の年間発生

回数が1.4倍になっていること、わずか4年の間に氾濫危険水位を超過した河川が約6倍になっていることなどのデータを示しながら、キセラでの建設見直し、現川西病院の存続を強く求めました。(多田地域も洪水浸水想定区域)

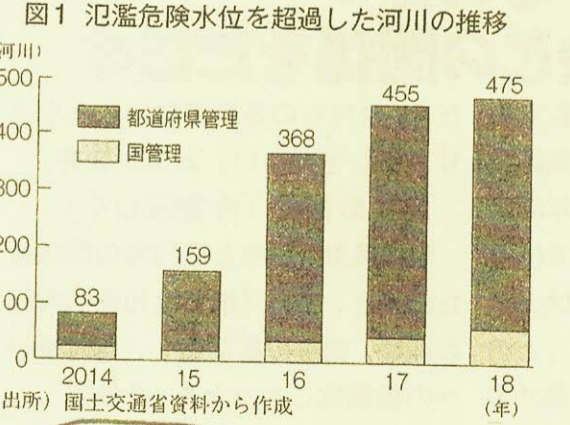
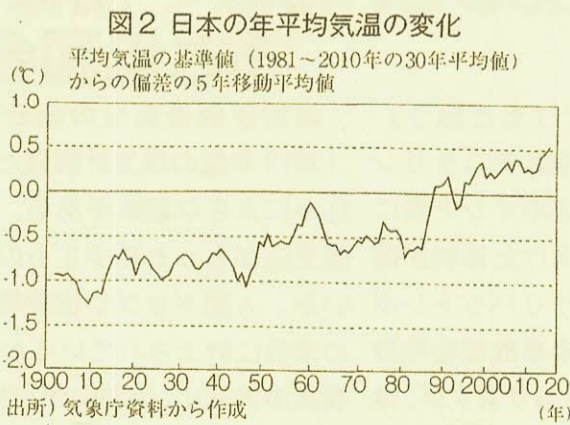
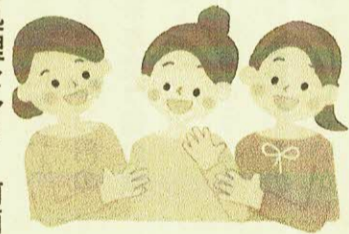
まちかどカフェで
 キセラ地域とは別に、災害調査を兼ねて、11月6日から4日間、北部地域9か所で「まちかどカフェ」を開催。地域の方々の声や要望などを聞き、質問・提案に取り入れられました。

市は、山原・緑が丘からの避難経路確保については、①東中橋の建替えは行わず、②市道55号の拡幅を地元の協力を得て土地を確保し工事着工予定③については、車の行き違いが可能なため改良は行わないと答弁しました。

各地の防災要望
 川西市地域防災計画では、「道路は、災害時における避難路。救急・医療・消防・救済活動及び緊急輸送ルート、延焼遮断帯等として重要な意義を持ち、道路の拡幅や植樹帯の整備をはじめ市域を格子状にネットワークする主要な幹線道路の整備に努め、道路交通機能及び都市防災機能の強化を図る」とされています。

避難所や備蓄にも
 災害時の避難所については、受け入れのあり方や電話の確保、十分な備蓄(毛布など・食料)を小学校区単位で確保すること、段ボールベッドや間仕切り確保など、人権・人間としての尊厳が守られるよう、スフィア基準を参考に環境整備・手立てを行うよう求めました。

市立川西病院の状況
 7月 8月 9月
 入院患者数(1日平均) 130.8 136.9 121.5
 入院稼働率(%) 55.9 58.5 51.9
 入院単価(円) 45848 44761 43623
 外来患者数(1日平均) 335.9 366.0 353.2
 外来単価(円) 10848 10146 10825
 常勤職員数 医師 31 31 32
 看護師 134 134 134
 医療技術者 50 49 49
 事務員 17 17 17



■1.5度上昇と2度上昇(産業革命前と比べて)の場合の影響比較

	1.5度の地球温暖化に関する予測	2度の地球温暖化に関する予測
極端な気温	2度に比べて1.5度に抑えることで、極端な熱波にさらされる人口が約4.2億人、例外的に熱波にさらされる人口が6500万人減少する	1976~2005年比で影響を受ける人口が2.7倍に
洪水	1976~2005年比で影響を受ける人口が2倍に	1976~2005年比で影響を受ける人口が2.7倍に
陸域生態系	昆虫の6%、植物の8%、脊椎動物の4%の種が生息域を半減	昆虫の18%、植物の16%、脊椎動物の8%の種が生息域を半減
サンゴ礁	70~90%が減少	99%以上が減少
漁獲量の喪失	海洋での漁業で年間漁獲量が約150万トンの損失	海洋での年間漁獲量が300万トンを超過して損失
2100年までの海面上昇	26~77%の上昇	1.5度より10%高い。リスクにさらされる人が最大で1000万人増加

※ IPCC 「1.5度特別報告書」から



※ 入院収入で4月度と9月度の差▼26905793円
 ※ 外来収入で4月度と9月度の差▼1896199円

キセラ周辺は、浸水深を示した表示があちこちにあります。災害時・被災時患者を運べる病院が必要です。

